



雪景色の中に佇む星原地区

町並みについて

- ◆鹿北茶の発祥の地である星原地区は、清らかな石清水が流れ、昼夜の寒暖差も大きく、霧深い独特の気候風土で味わい深いお茶を育みます。
- ◆栽培の歴史は古く、細川忠利公が筑後との国境巡視の折に星原御番所で献上されたお茶を気に入り、以後細川家御用達として重宝されました。
- ◆忠利公の休憩所となった御番所跡地は石垣の一部が残るだけですが、周辺には鹿北茶発祥の記念碑や星原観音堂などが点在し、肥後藩さっての茶産地の面影を残しています。



町並みの中心(核)となる伝統的建造物

星原茶をルーツとする岳間茶

- ◆忠利公に愛された星原茶は、その後細川家御前茶としての地位を確立し、「献上」から「御買い上げ」*の光栄を受けました。
 - ◆そして明治期に入ると、銘茶として名高い岳間茶ブランドが確立されました。また、明治政府が紅茶製造を推し進めた際には、同地区に国内で初めて「紅茶伝習所」が設置され、緑茶と紅茶の産地として隆盛を誇りました。
 - ◆平成24年には、途絶えていた和紅茶とも呼ばれた紅茶を復刻し、国産紅茶の発祥の地として再興を目指して動き出しています。
- ※当初は藩に献上していましたが品質の高さが評価され、後に年339斤(約203kg)買い上げられるようになりました。



星原茶の伝統を受け継ぐ岳間茶畑

星原茶にまつわる記録は百数十年前の大火によりほとんど焼失しましたが、険しい山を切り開いた集落内に広がる茶畑が醸し出す静謐な空間と先人から継承される栽培技術が、新たな岳間茶ブランドを生み出す担い手に記憶とともに引き継がれています。